

梨団子づくり手順



1.餅つき

「紅梨団子」は食紅を垂らし、白の中で混ぜるときれいに染まりました。



2.梨団子

細長く伸ばした餅を糸をくわえて千切ると簡単でした。



巾着

お金が貯まりますように。財布(がま口)の見立て。



おみ玉(前玉)

「五穀豊穰」を願って、農作業が始める前に、最初に食べるものと言われている。稲穂の見立て



力(ちから)餅

人や牛、馬が元気に働けるように。



3.飾り物①

松、ユズリ葉、南天など縁起が良いもの。



梨団子とは・・・「ミズキ」の木に、餅や繭玉などの縁起物の飾りを付けて飾る小正月行事です。地域によっては「だんご木」ともいう。

由来は・・・・諸説あるようですが、梨の花がたくさん咲くと豊作になることから「団子」を梨の小さな花になぞられて飾ったのでは、とされています。ミズキは樹形が良いことだけでなく、「水木」とも書き、その名の通り樹液が多いことから 家内安全(防火)にも通ずる、として使われるのではなかろうか。



4.飾り付け②

梨団子、繭玉など。枝芽は事前に欠いておくと、飾り付けしやすいです。



飾り付け①

ミズキは扇状に枝を広げ、階段状の樹形になり、テーブルツリーとも言われる。設置場所により複数本の組合せでも可です。



飾り物③

もんだら(通称) 藁細工 水引は市販品。



飾り物②

丸いのが「繭玉」、その他おめでたい物でいずれも市販品でした。使い回しも可。

①材料準備

- ・ミズキの木（全くの1本木だけでなく、枝の組み合わせでも飾れるので、設置場所や見映えが良くなるようなイメージして切り出す。）
- ・モチ米（適量。大（巾着）中（力（ちから）餅）小（梨団子・おみ玉）
- ・ 藁 （もんだら作製用及び巾餅（着、力餅、おみ玉）を下げるため）
- ・ 飾り（松、ゆずり葉、南天の枝のほか、繭玉ほか市販品）
- ・ その他（支柱（ミズキを固定するため）、食紅、麻糸など）

②ミズキの木を取り付ける

③餅つき

④団子づくり

ア. 梨団子（紅白）

「白」用を取り出した後、臼に残った餅に食紅を垂らし、全体を混ぜ合わせて「紅」用を拵える。

取り出した紅白餅を棒状にし、裁縫糸で千切ると手間がかからない。

イ. おみ玉（前玉ともいう）※稲穂見立て

農作業が始まる前の最初に食べるものとされ、五穀豊穰を願う気持ちを表す。

藁稈（長さ20cm位で稈12本）を2つ作り、稈に白餅を適当数を付ける。

ウ. ちから（力）餅

人や牛、馬が元気で働けるように願う気持ちを表す。

藁稈（長さ20cm位で稈5本）を4つ作り、1稈に1個の白餅を付ける。

作った22個のうち、2個はお目玉にも付ける。

エ. 巾着餅

お金が貯まるようお願いを表す。

藁稈（長さ 50cm 位） 1 つ作り、「がま口」のイメージで白餅を付ける。

⑤飾り付け

ア. 松、ユジリ葉、南天を束ねたものを幹中心に据える。

イ. 梨団子は、紅白餅を適当に枝先につけるが、事前に枝芽を欠いておくと刺し易かった。

ウ. おみ玉、力餅は近間につけると見映えが良いように見えた。

エ. 巾着は、アと重なるように取り付ける。

オ. 繭玉やその他も適当に飾る。市販品のものは使い回し（新しい物を買わないで）でも良い。

カ. 「もんだら」は、藁の捩じり目付近を縛り、稈先の扇型が崩れないよう糸で交差縛りすると良い。

⑥その他

ア. 梨団子をつけやすいように、枝先の芽は摘み取っておくと良い。

イ. 餅は柔らかいうちに付けると落ちやすいので、適当な時間を置いた方が良い。